

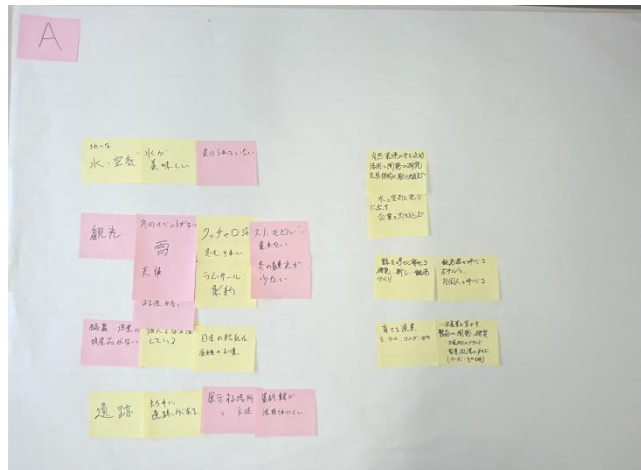
第2回浜頓別未来会議「ワークショップの結果」

「①テーマ（「10年後になってほしい、浜頓別町の姿）」

「②いかすべき強み、克服する弱み」 「③強みをいかしたり、弱みを克服するための取り組み」

※今回の2回目、次の3回目で、全体をまとめます。今回は、途中経過です。

A班



- ・第1回目で出てきた「地域の資源がある」「地域の資源がいかされていない」という点から、“魅力的な資源を活用する町へ”、という視点で協議を進めた。
- ・町の資源を適正に評価をしてもらえるよう、研究機関に調査依頼したり、活用できる企業を誘致するなど考えられる。
- ・観光地としても、より多くの人を呼ぶことができるよう、受け入れ環境を整えることが必要と考えられる。

②いかすべき強み、克服する弱み

③強みをいかしたり、弱みを克服するための取り組み

◎きれいな水や空気がある。

◎水がおいしい。

▼しかし、これらの資源があまり知られていない。



■自然資源の第2次的活用と開発の研究に具体的に取り組む。

■水と空気を売り出す。企業を引き込む。

◎ラムサール条約湿地に登録されているクッチャロ湖がある。

◎冬もきれいである。

▼観光振興があまり行われていない。冬の観光が少ない。

▼冬のイベントがない。

▼天候（が良くない）

▼お土産がない。

▼スノーモービルが来れない。



■鶴を呼び寄せる研究など、新しい観光づくりを行う。

■観光客を呼べるホテルをつくる。

■外国人を呼べるようにする。

◎▼特産品は個人では生産しているが、町全体としてみると、酪農、漁業の特産品がない。

◎日本の粉乳は浜頓別のよつ葉工場生産されている。

◎▼まちなかに遺跡があるが、展示する場所や活用方法がない。

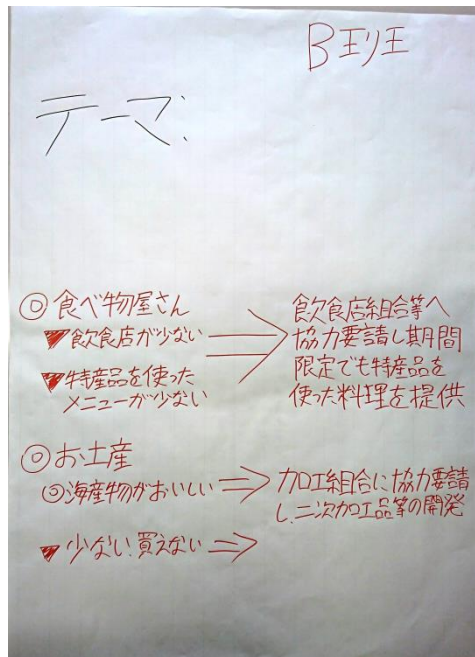
▼郷土資料館が活用されにくい。



■「育てる漁業」を進める。（ウニ、コンブ、カキ）

■一次産業を生かす製品の開発、研究。（水産加工のブランド、農業や乳業の加工（チーズ、その他）

B班



- ・第1回目に出てきた「食べ物屋さん」についてと「お土産」について、協議を進めた。
- ・地域資源という意味では、特産品や食べ物などだけでなく、「人材」という資源も重要。地元の人の人材育成が行えないか考えた。
- ・例えば、今度新しくできる「交流館」で、地元の人が地元のものを使ったメニューを、期間限定でも良いので提供したりするなどできないか。
- ・また、特産品の開発や、料理のコンテスト開催なども考えられる。
- ・お土産は「少ない」「買えない」というのが課題。販売側から見ると、まとめて売の方が利益になるので仕方がない面もあるが、地域のために小売りを提供してもらえるように働きかける。

②いかすべき強み、克服する弱み

③強みをいかしたり、弱みを克服するための取り組み

(食べ物屋さん)

- ▼飲食店が少ない
- ▼特産品を使ったメニューが少ない



- 飲食店組合等へ協力要請し、期間限定でも特産品を使った料理を提供

(お土産)

- ◎海産物がおいしい
- ▼お土産が少ない、買えない



- 加工組合に協力要請し、二次加工品等の開発

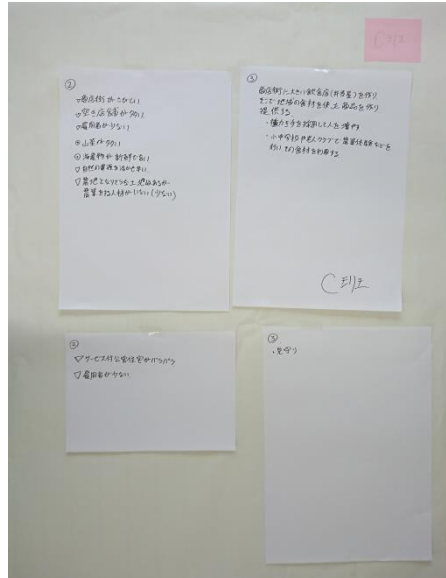
第2回浜頓別未来会議「ワークショップの結果」

「①テーマ（「10年後になってほしい、浜頓別町の姿」）」

「②いかすべき強み、克服する弱み」 「③強みをいかしたり、弱みを克服するための取り組み」

※今回の2回目、次の3回目で、全体をまとめます。今回は、途中経過です。

C班



- ・雇用者の目線で協議を進めた。
- ・まず、商店がさびしい。空き店舗が多いという現状がある一方で、山菜が美味しいという良さがある。そこで、山菜を活用し、空き店舗を活用して配食サービスを行う、残った食材は、計り売りなどを行えば、住民にも喜んでもらえる。そして、この店舗を軸に雇用者を増やす。
- ・また、小中学校や老人クラブなどで農業体験の機会を増やす。そこでできた生産品は、食材として活用する。
- ・「働く人が増える」ということと「食材の有効活用」が同時に進む。
- ・もう一つは、高齢者対象の住宅が町内に点在しているので、できるだけまとめ、見守る人を配置する。（効率的になり）雇用も増える。
- ・そのためには、交通など生活環境を良くすることも大切。

②いかすべき強み、克服する弱み

③強みをいかしたり、弱みを克服するための取り組み

- ◎山菜が多い
- ◎海産物が新鮮で旨い
- ▼商店街がさびしい
- ▼空き店舗が多い
- ▼雇用者が少ない
- ▼自然の資源を生かせづらい
- ▼農地となりそうな土地はあるが、農業をやる人材が少ない(少ない)



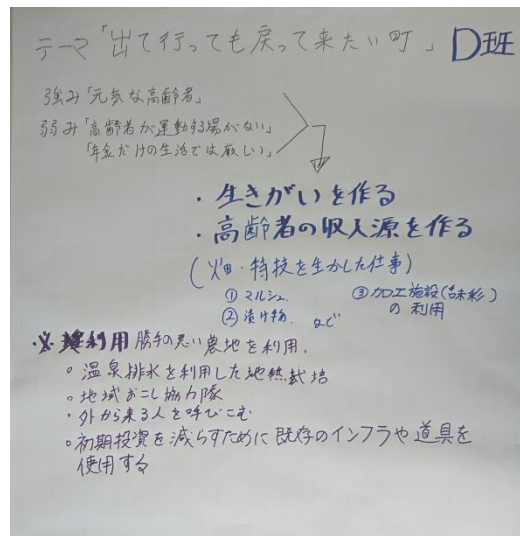
- 商店街に大きい飲食店（弁当屋）を作り、そこで、地域の食材を使った商品を作り提供する。
- 働き手を採用して、人を増やす。
- 小中学校や老人クラブで、農業体験などを行い、その食材を利用する。

- ▼グループホームがない。
- ▼サービス付きの公営住宅（高齢者を対象とした住宅）がバラバラ
- ▼雇用者が少ない



- 高齢者の見守りを行う職員住宅を配置し、高齢者を対象とした住宅をまとめる。
- そこから雇用を増やす。
- 雇用から並行して、雇用者の居住環境を改善していく。
- 雇い放しではいけない。
- 交通環境の見直し。
- 飲食の見直し。

D班



- ・これからさらに増えていく、高齢者の福祉について協議を進めた。
- ・テーマは、「出て行っても戻って来たい町」とした。
- ・元気な高齢者がいるものの、運動をする機会や、コミュニティでの交流を行う機会が少ない。また、年金だけでは生活するのが大変であるということから、身体を動かしながら、高齢者の能力をいかし、収入減をつくらざるを得ないかと考えた。
- ・現在、町内には、低利用（未利用）の農地が結構あるので、それらの農地を生かして、野菜などをつくり、漬物などの加工品をつくり、マルシェで販売する。漬物は、今家庭で漬ける人も少なくなってきたので、ニーズはあると思う。
- ・冬季は、温泉の排水を利用して、地熱栽培ができないか、また、新しく整備をすると費用がかかるので、既存のインフラを利用して、取り組めるようにできないかと考えた。
- ・取り組みを進めるにあたっては、地域おこし協力隊や外から人を呼び込んで行うことが必要と思われる。

①「出て行っても戻って来たい町」

②いかすべき強み、克服する弱み

◎元気な高齢者

▼高齢者が運動する場がない

▼年金だけの生活では厳しい



③強みをいかしたり、弱みを克服するための取り組み

■生きがいを作る

■高齢者の収入源を作る

(畑・特技を生かした仕事)

①マルシェ ②漬物

③加工施設（あじ彩）の利用

※利用勝手の悪い農地を利用

・温泉排水を利用した地熱栽培

・地域おこし協力隊

・外から人を呼び込む

・初期投資を減らすために、既存のインフラや道具を使用する。